

# 義太夫

義太夫協会会報  
第37号

昭和61年4月30日  
社団法人 義太夫協会発行  
〒104 東京都中央区銀座  
6-18-2 新橋演舞場B2  
TEL (541) 5471

## 「仙廣賞」の創設と第一回授賞

義太夫協会会長 吉川英史

文学賞で個人の名前を冠した賞には、「芥川賞」「直木賞」「菊池寛賞」などがあり、音楽賞では洋楽の方で「尾高賞」「入野賞」「木下賞」などがあります。それに比べて、邦楽の方では、琵琶楽コンタールの一位入賞者に贈られる「辻靖剛賞」が唯一つあるだけだと思えます。(宮城道雄の死後数回続いた「宮城賞」は中止されました。)

しかし、このたび豊澤仙廣さんが義太夫協会に尽力された功績を記念して、「仙廣賞」が創設されましたことは、誠に同慶に耐えられません。仙廣さんは、技芸の面でも努力精進され、女流義太夫三味線の最高の芸術に到達された人であります。しかも、協会の法人化と発展に、物心両面の絶大な援助を与えられましたことは、協会員一同の深く感謝してい

るところであります。

前述の「辻靖剛賞」がその業績を記念する故辻靖剛氏は、薩摩琵琶の演奏家としても一家なした人でしたが、日本琵琶楽協会の設立と発展に心血を注ぎ、物心両面の援助をされたことなど、不思議な位、仙廣さんに似ていました。「仙廣さんは、義太夫協会の辻さん」といえるような気がいたします。お二人とも私が会長をしている協会の副会長を勤めて下さいました。

さて、幸いにわが義太夫協会は、このたび財団法人松尾芸能振興財団の「松尾芸能賞」の「特別賞」を受賞いたしました。協会の努力と活躍が、自画自賛でなく、公に認められたということ、ご同慶の至りです。この受賞によって、わが義太夫協会の株は、現在の

一般株価の高騰をはるかに上回る人気株になることを期待いたします。  
目黒の雅叙園観光ホテルで、三月二十七日に行われた「松尾芸能賞」の授賞式に、私は協会の代表として脚光を浴び、上方歌舞伎の片岡仁左衛門さんに続いて、賞状・賞金・トロフィーを受け取りました。これらも、本来ならば仙廣さんが手にされるべきものであったのと思えます。仙廣さんに改めて御礼申し上げます。

さて、協会の「仙廣賞」の授賞規定は別紙の通りで、原則として受賞者は一人ですが、今回は例外的に二人となりました。現在の副会長二人(竹本朝重、竹本駒之助)です。「仙廣賞」はいわば技能賞ではなく、協会への協力貢献に対する努力賞の性格のものであります。

また、「仙廣賞」は多年に亘る功労賞ではなく、一応年度賞の性格を持つものであります。副会長お二人が永年に亘り、毎月の定期公演その他の重要な公演に欠かさず、進んで出演し協力されたばかりでなく、本協会の運営にも、日本女性のつつましさを守りながら、献身的に貢献されました。選考委員会が満場一致推挙されたゆえんであります。

賞の権威と重みは、受賞者のその後の活動の如何によって決まります。お二人が「仙廣賞」の受賞者にふさわしい活躍と協力を続けられ、「仙廣賞」の権威を高めて下さるよう希望いたします。

因みに授賞式は、五月二十日、本牧亭の定期公演の席で行われる予定です。

### 豊澤仙廣賞規定

- 一、社団法人義太夫協会は、豊澤仙廣師が本協会の設立と発展に多大の貢献をされたことを記念して「豊澤仙廣賞」を設ける。
- 一、賞は、賞状および副賞金拾萬円とする。
- 一、受賞者は、左記に該当する人の中から、原則として一名を選考委員会が選ぶ。
1. 本協会の会員で、満五十五歳以下の入。
2. 本協会に顕著な功労のあった人。
- 一、選考委員会は、会長、副会長、常務理事で構成される。
- 一、賞の性格は、永年に亘る功労よりも、年度賞的性格とし、前年の一月〜十二月までを対象とする。

#### 副賞は

### 河野國声氏より十萬円

会報第34号でお知らせした「豊澤仙廣賞」が創設の運びとなりました。昭和十三年以来仙廣師の仕事ぶりをつぶさに見てこられた常任相談役・河野國声氏が、仙廣師の功績を忘れてはならぬと、賞の設立を協会に提案された後、何回かの会議を経て右の通り規定も定まったものです。

副賞の金十萬円は、株式会社十全を通じて河野國声氏より毎年お届け下さることになっています。第一回は受賞者が二名ですので、特別に二十萬円頂戴いたしました。

#### 〔受賞者略歴〕

竹本朝重（たけもとあさじゅう）  
昭和24年 竹本小土佐に手ほどきを受く。33年 鶴澤重造に入門。36年 二代目竹本朝重を襲名。38年度 人形浄瑠璃因協会賞。45年 社団法人義太夫協合理事。46年 因協会奨励賞。52・55年 芸術祭大衆芸能部門優秀賞。55年 重要無形文化財総合指定「義太夫節保存会」会員。58年 義太夫協会副会長。

竹本駒之助（たけもとこまのすけ）  
昭和24年 竹本春駒に入門、竹本駒之助となる。以後、先代豊澤団友、豊竹若太夫、竹本綱太夫、豊澤小住、豊澤仙平等に師事。27年 東上。昭和28年度 人形浄瑠璃因協会奨励賞。45年 竹本越路大夫に師事。49年 社団法人義太夫協合理事。55年 重要無形文化財総合指定「義太夫節保存会」会員。58年 義太夫協会副会長。

### 義太夫協会

### 松尾芸能賞受賞!!

去る三月二十七日（木）午後三時より目黒雅叙園観光ホテルにて第七回松尾芸能賞授賞式が行われ、当協会は伝統芸能特別賞を受賞いたしました。「とおく江戸時代より時節の難関をのりきりながら義太夫の伝統を綿々と

#### お見舞 豊澤仙廣師

義太夫節保存会会長豊澤仙廣師は、1月24日、転倒して第一腰椎を骨折、厚生年金病院に入院されましたが、3月8日には早くも退院。現在は近所を散歩できるまでに回復されました。保存会主催「近松半」名作集の直前の怪我とあって、その無念さは想像に余りあるところですが、その無念さをバネとしての回復への気力と、御家族の暖い看病とが功を奏したのでしょう。5月20日、本牧亭での仙廣賞授与式に向けて、体力を調整中です。

#### △お断り▽

豊澤仙廣賞の授与式は、三月の本牧公演席上にて行う予定でしたが、仙廣師の怪我の回復を待って、五月二十日に延期いたしました。どうぞ悪しからず御了承下さいませよう、又当日は賑々しく御来場賜りますようお願い申し上げます。



伝えてきた。近年古典芸能の持続が非常に難しい時代となったが、その理解と普及のため様々な活動を行い、後継者の育成に努めてきた（推薦理由より）ことによるものです。今回の受賞者を列記すると――

- 大賞 市川 団十郎  
 優秀賞 三田 佳子 (映画・演劇)  
 " 古賀 宏一 (舞台美術)  
 " 望月 左吉 (伝統芸能)  
 特別賞 片岡仁左衛門 (演劇)  
 " 義太夫協会 (伝統芸能)  
 新人賞 祭 小春 (歌謡芸能)



第7回松尾芸能賞授賞式

写真提供 邦楽社

研修助成 猿之助公演タテの人々 (演劇)  
 " 八王子車人形 (郷土芸能)

義太夫協会は、その創立以来多年に亘り、義太夫の後継者の指導育成につとめると共に「学校巡演」「教師のための義太夫講習会」「公演会」を屢々開催し、その普及・理解に尽瘁、斯界の振興と発展に貢献（表彰状あり）ということ、賞状・賞金（金参拾萬円也）とトロフィーを授与されました。

松尾芸能賞とは故松尾國三氏の発案で、日本の伝統ある劇場芸能を助成、振興しもって我が国独自の文化、芸術の保存及び向上に寄与すること、を目的として設立された松尾芸能振興財団が年度毎に選考するもので、今回で第七回となります。

当日は吉川会長が出席、代表して賞を受けられました。他に両副会長・事務局長が参列いたしました。

このような芸能賞を団体として受賞することは稀有なことであり、又、研修助成として八王子車人形共々の受賞で、誠に嬉しい日でありました。これも会員一同が地道に努力したことが認められたもので、今後一層の励みとしたいと念ずるものであります。

(竹本綾太夫)

写真は左より

- 松尾芸能振興財団・松尾ハズエ理事長、  
 市川団十郎、三田佳子、望月左吉、古賀  
 宏一、片岡仁左衛門、義太夫協会会長・  
 吉川英史、西川古柳の各氏 (敬称略)

保存会会員 初の追加認定

文化財保護審議会(小林行雄会長)は、三月二十八日、重要無形文化財(人間国宝)の認定を海部文相に答申。同時に重要無形文化財の能楽、沖繩の組踊、義太夫節の保持団体の構成員一〇七名を追加認定するよう答申しました。義太夫節は、五十五年の認定以来初の追加で、保持者は次のとおりとなりました。近日中に認定書が送付される予定です。

(五十音順。印は今回の認定)

- |          |          |
|----------|----------|
| 竹本 朝重    | 竹本 綾之助   |
| 竹本 綾春    | 竹本 角重    |
| 竹本 勝昇    | 竹本 喜久太夫  |
| 竹本 組春    | 竹本 越友    |
| 竹本 越道    | 竹本 駒之助   |
| 竹本 駒龍    | 竹本 春華    |
| (故)竹本重之助 | 竹本 住吉    |
| 竹本 住友    | 竹本 染登    |
| 竹本 土佐廣   | 竹本 春駒    |
| 竹本 雛三    | 竹本 素八    |
| 竹本 弥乃太夫  | 豊竹 勝司    |
| 豊竹 団司    | 鶴澤 寛乃佑   |
| 鶴澤 寛八    | 鶴澤 金吾    |
| 鶴澤 駒登久   | (故)鶴澤 三生 |
| 鶴澤 重輝    | 鶴澤 津賀昇   |
| 鶴澤 友路    | 豊澤 猿三郎   |
| 豊澤 源平    | 豊澤 住造    |
| 豊澤 仙廣    | (故)豊澤 仙平 |
| 豊澤 雛代    | 豊澤 和孝    |
| (故)野澤 市造 | 野澤 吉平    |

# 大正初期の新富座 — 文楽素浄瑠璃興行 —

相談役 豊澤 猿三郎

はじめに故師匠様方のお名前に敬称を略しましたことをお詫び申し上げまして、久しぶりに旧いお話をいたしましょう。

昔の俳を残す劇場は東京では新富座が最後でしょう。表に高い櫓を立て、向側には「さるや」を始め八軒の芝居茶屋が軒を並べ、内部は舞台を正面に、東西に難段、上段をうづら、下段を高土間、仮花道があつて十列の樹(平土間)四人詰め、一番前列のみ二人詰め(小一)(たまり)と言います。本花道があつて、東と同じ難段です。二階は東西一列で、正面は三段、次は柵無しの自由席(追込み)、其の後ろの鉄格子の中が立ち見(一幕見)。この立ち見の混む興行は、大当りと昔から言われております。今と違って冷房も扇風機もありません故、棧敷の後ろの杉戸を取り払うだけです。

八月は例年文楽の素浄瑠璃が十日間興行します。心ある文楽の太夫三味線は、この十日間代地(だいち)(柳橋)の豊澤松太郎(初代)の所へ稽古を戴きに行きます。松太郎も十日間身内の稽古を休んで、朝八時から一時頃迄文楽の稽古に当てます。その御礼の意味か、毎年五日目に松太郎を棧敷の五の樹へ招待します。この日も、常子太夫、八十太夫(住太夫)、

淀太夫、勝平(喜左衛門)が終つた時、松太郎は猿之助(五世)と同道、松太郎は養子の芳太郎(二世松太郎)、猿之助は内弟子の猿治(猿三郎)に長い団扇を持たせ、扇風機代りのお供です。

舞台は鍛太夫・団六(寛治)の「油屋」でお客も大満足です。次は源太夫(織大夫の祖父)・勝市の「弁慶上使」。あのギン張つた美声で満場をうならせ、次はお待ちかねの古鞆太夫・清六(三世)の「袖萩」。あの大盤石の様な、又絹糸の如き清六の絃に、妖しい迄に人を引込む古鞆節と相まって、お客は酔つた様です。ここで二十分の食事時間です。銘々出方(でかた)(お客の用を司る唐棧の着物にタッソケをはいた粋な若い衆)に頼んで置いた弁当を取り寄せ、チビチビ呑みながらの芸談です。つい話が長くなります。御簾は上つて、伊達太夫(土佐太夫)・吉三郎(七世吉兵衛)の「新口」が始まったが、客席は騒がしい。尤も千人以上の人間がチビチビガリガリ食べるの故、相当な音です。追込みのファンが「静かに食べろ、太夫の声が聞こえねえぞ。」たまりから声があつて、「うるせえ、舞台の前だつて聞こえねえんだ。」気の毒なのは伊達太夫です。誰言うとなく、「弁当太夫」と通

り名になってしまいました。しかもその日、孫右衛門の出の前に、花道から赤い羽織と頭巾をかぶつた爺さんが舞台へ向つて出て来ました。吉三郎はトントンとカラ二を弾いてつないでいましたが、短気な伊達太夫は語り出しました。「孫右衛門は老足の休み、ウー」の所で老人は、花道の七三で客席へ背を向け、ウーと伸びをしました。右袖に肩衣の名人、左に浅草蔵前、背中に大清と大きく染抜きです。満場はワーッと笑いと怒りです。気の毒に一段目茶苦茶です。

次は津太夫・友次郎の「沼津」。悪かろう筈はなく、次、南部太夫(三世)・寛次郎の「御殿」。初めのうちは例の「シェンマツ」が気になります。直ぐ馴れます。これも芸の力でしょうか。いよいよ大御所越路太夫(三世)・吉兵衛(六世)の「太十」。今時の客と違い拍手なぞしません。水を打つたというのはこの事でしょう。「操の鏡」で燭台のシン切りが出ます。これは舞台上に控えている白湯汲みの仕事です。現今の糸芯と違い、紙を堅く一センチ位に捲いた芯ゆえ、長くたてば折れて落ちます。その芯を沢山切れば消えます。短ければ失敗です。舞台の三本の燭台を十五秒位の時間に切るの難しい事なので「太十」はめでたく終りました。

客は全部木戸で下足をもらい外へ出るの故、時間がかかります。「太十」がすんで一分たぬうち舞台が開きました。七世むら太夫・歌助の追出しです。舞台上を背中を向けるお客に叫びます。「モウいやるか、名残りが

情しい、別れとむない、ま一度こちら向いたも、おつるいのう、チ、、、。お弓の追かけまで語ります。松太郎・猿之助の親子は立ちません。むら太夫はツルツル頭の汗を拭き拭きかけ降りて、仮花道の七三へ来て平伏、「お耳を汚しまして、恐れ入ります。松太郎は「ヤ御苦勞さん、お互いに年や、体大事にしましょうナ。」「ご勿体ない御言葉、有難う存じます。」松太郎は立ちました。表の風に当りながら、芳太郎が「清六さん、よう撥はずしますナア。」松太郎が「今日聞いた八人のうち、一撥ごとに裏皮へ抜けてるのは清六一人じゃ。古鞆太夫はええ三味線に弾いてもううて仕合せな人や。」桜橋へ待たせて置いた人力車に二人は乗りました。松太郎家には芸人は人様の前で人力車に乗降してはならぬと、きびしい礼儀がありました。芳太郎は弱いので電車で。猿治はテクって蛸殻町の猿之助の稽古場へ。橋詰めめ蜂ブドウ酒の会社も真暗です。交叉点の花見煎餅も金網屋も大戸が下りました。夜も更けます。ではお寝みなさいませ。

豊澤猿三郎師

おめでとーございます

印刷寸前に嬉しいニュースがとびこみました。協会相談役豊澤猿三郎師に勲五等瑞宝章、三味線の最長老、義太夫関係団体の役員動続58年の功勞に対するものでしょう。今後もお体に留意され、芸に、そしてこの会報のために貴重な原稿を沢山お寄せ下さいませように。

<収入の部>

会場募金箱 (20・21日)	45,180円
当日入場料	35,250円
出演者扱切符代	43,200円
義太夫協会補助	690円
協会扱御寄附	327,500円
<内 訳>	
豊澤 仙廣様	100,000円
新小松御一同様	33,500円
新橋組合様	20,000円
和田 博様	20,000円
河野 國声様	15,000円
坂本 朝一様	15,000円
妣田 圭子様	15,000円
松尾 武市様	15,000円
松前 重義様	15,000円
小島 美子様	10,000円
佐野 俊三様	10,000円
菅 邦夫様	10,000円
竹本 土佐廣様	10,000円
横山 敏雄様	10,000円
金原 ふじ様	5,000円
佐伯 勇様	5,000円
竹本 朝輝様	5,000円
中村 初波奈様	5,000円
渡辺 兼佐様	5,000円
水野 賢世様	3,000円
鶴澤 駒千代様	1,000円
収入合計	451,820円

<支出の部>

心身障害児のための寄附金	200,000円
本牧亭席料他諸掛	85,000円
旅費・宿泊・交通費	77,680円
通信費	50,090円
床世話・荷上他	20,000円
総稽古諸経費	5,000円
祝儀他	6,000円
諸雑費	8,050円
支出合計	451,820円
差引残高	0円

収 支 決 算 報 告

心身障害児のための  
第15回特別公演

義太夫協会が社団法人になった翌年から始まったチャリティー公演は、回を重ねて15回、暮の「忠臣蔵」をチャリティー公演とするようになってからも早11回、皆様のおかげをもちまして今回は二十万円を心身障害児福祉に役立てて頂けることになりました。これは、社会福祉法人NHK厚生文化事業団が有効に活用して下さいます。また、今回もプログラム・切符等の印刷一切は協会常任相談役の高野俊雄氏がおひきうけ下さいました。



# 教室OB会に思う 時代の反映

常務理事 竹本 弥乃太夫

義太夫教室がスタートしてから今年が三十九年目、此の建国の日に催された教室OB会は、嘗て今回程の盛況さを見たことがない程の大成功を収めた。延々九時間余の熱演が続き、その間客足の途切れを知らず、外の寒さをよそに、本牧亭の客席はムンムンとした熱気に包まれた若手で埋まった。先づは同人会協会関係各位の御努力に敬意を表したい。

扱て振返って、戦後昭和二十三年から、若人と共に各時代を反映して歩んだ教室の歴史は、斯界に大いなる影響を及ぼすに至った。旧因協会といっても、故湊太夫氏の経営に始まった義太夫教室を、法人化を機に現義太夫協会の事業に切換えた。昭和四十五年のことである。折しも古典が静かなブームとなつて、若人の間に台頭し始めたこともあって、今まで死んでいったような教室が、急に息を吹返したかのように、全く過去には考えられない多数の応募者に我々はびくりした。此の年を境いに、これまでの教室の同人を旧、以後を新同人と呼ぶことにした。以来毎年、如く四十名程度の受講生を容する活気を呈し、義太夫教室の存在を広く世間にアッピールすることが出来た。

そもそも古来伝統芸能である義太夫節に、

一人でも多くの若人に関心を持って貰える為の努力をすることが、義太夫協会の事業であり又使命でもある。教室に応募して来る生徒の動機は様々であるが、旧同人と比べて、かなり時代の差を感じることは否めない。尠くとも我々の時代は、長年歌舞伎や文楽を見つけていて、それなりの環境に浸り、予備知識があつたものだが、現代は一時的な衝動にかられ、やってみたくなつた人が圧倒的多数である。環境的に支配されたり、本職の俳優が声の鍛練に、或は、学術的研究の為の学生、等は極めて少い。しかしながら一時的にせよ、義太夫に人氣が集り、関心が示されれば、成功で、過去の長いブランクの時代、義太夫なんて古くさい、といった見捨てられた時代のことを考えれば、ずいぶん古典も見直されて来た、とも言える。

教室の過程を了え、更に稽古を続けたい希望者の為に、協会理事の各師匠を斡旋し、毎年それぞれに分散されている。生徒が習得したものの総発表会、いわば、部屋別対抗の形での競演会だから、OB会も、必然的に応援も活発となり、熱気がこもる。技倆も年々向上し、旧同人に交つて新同人もそれなりに評判がいい。又例年の卒業生は、かねて東横

学生名顔会出演に参加することにより、その発表の場を得ていたが、東横ホールの昨年の閉鎖に伴い、今年の本牧亭に舞台を移し、同時にOB会としたわけで、既に来年も同時期開催は決定で、恒例にしたいものである。

演劇界に目を投じて見よう、最近猿之助が新しい歌舞伎を造り上げ、玉三郎や孝夫等の新鮮コンビが、いやが上にも新しい歌舞伎ファンを魅了している。いつの時代でも、スター出現はその芸術の飛躍発展につながる。大御所達は古い伝統をふまえ、その評価たるや様々に取沙汰されてはいるが、観客動員は凄まじく、もはや時代に逆らえない感はある。伝統という名の歌舞伎、義太夫でも同じこと、矢張り大切に保存し守っていかなければいけない事は言を俟たない。が又、新しい視野に立って、古典を見つめる、という姿勢も大切である。テレビドラマでも映画でも、現代に通じるドラマとして、近松作品を採上げ、新しい人物像を探究し、新しい観点から古典を料理し成功させている。我々の義太夫教室から多くのプロが誕生し、若い女性達は義太夫界の今後を荷うべき大きな原動力となつて、例月の舞台上に活躍していることも見逃せない。教室同人も、現在の歌舞伎や文楽を支えている絶大なるファンである。若い人なりのキャラクターで、古典の中の現代という観点で、若手ファンがどしどし造られて行くことを考えれば、義太夫教室の今後に課せられた使命は又重大といわざるを得ない。今年も三十九期の教室が開講される。

# 義太夫教室OB会



後列中央がゴールドレークさん



38期生の初舞台から  
ハテ、どこかで見たような……左端は  
NHK 葛西聖司アナ  
(写真提供 長 乾二氏)

## 〜 会員の便り 〜

皆様、いかがお過ごしでしょうか？

私は御存知のように、ミシガンに帰ってきております。こちらでは見渡す限り一面の雪におおわれ、とても寒い日々を送っています。でも東京での楽しい思い出や皆様のあたたかい親切は私の寒い体をあたためてくれます。

今、私は論文をまとめて最後のおいこみにかかっております。150頁まで終わりましたが後250頁までがんばります。

4月5日シカゴの近くの大学で民俗音楽学会の地方の会議で「女流義太夫は人間国宝まで」というテーマについて講義する事になりました。その時には大学の先生方と音楽家が出席されます。

そして4月中旬にミシガン大学で音楽部の皆様に女流義太夫について発表いたします。このために集めた資料のなかからビデオ、またはテープなどを使います。

これが終わりましたら博士号がもらえます。皆様のおかげにより私はいろいろな勉強をすることができました。先日の2月11日OB会に三十八期生と一緒に出演できましたこと、大変よろこんでおります。この経験を忘れずまた一年間、一緒に活躍したことを心から深く感謝いたしております。

末筆ではございますが皆様御大切に。

Kimi

ヌミ・コルドレイク

昭和61年2月18日

- 【38期生アンケートより】
- \* OB会に出たということは、38期生の団結力、集中力が増し、義太夫に対する考え方が、以前と較べものにならないくらい活気がでて大変良かったと思います。
- \* 初舞台は緊張と興奮のまま、我を忘れてただやみくもに口を動かしている内に済んでしまいました。聞かされる方の身を思えば、本当に気の毒には思いますけれど、何とも気分の良いものですね。
- \* OB会、年に一度こんな企画があると良いと思います。先輩の語る姿から刺激も受けられますから。
- \* 舞台が目標となり練習量も現金なもので大幅に増え、少しは向上したかなあと自分では思っております。ただ卒業と会がずれる
- のが少々中途半端ではあります。
- \* 卒業証書のようなものが欲しい気がします。
- \* 邦楽と聞くと頭から敬遠する感じがですが、意外と新しい感じがするのに驚きました。
- \* 一番ありがたいと思ったことは、受講料の非常に安い負担額でした。
- \* 義太夫への理解のみでなく生徒間の交流を通じて邦楽各分野への目が広くなった事も収穫でした。義太夫の低迷を打破する策を探るなど、講師・生徒間の意見交換等もあって良いと思います。
- \* 教室の内容・期間など妥当な運営だと思えます。問題は、教室の存在や義太夫協会の有無が世間に知られていないことだと存じます。いかに人々に知らしめていくか、益々発展するよう期待したいと思っております。

# 芸の伝承と支える人々

和田 博

義太夫教室OB演奏会と義太夫節保存会伝承者研修発表会が、本牧亭で催された。両会共、義太夫協会の後援であり、色々な面で重なる部分が大い。日も接近していたので、二つの会を通した感想を述べて見たい。

OB会当日の番組表の中で、義太夫教室の歩みが詳細に記されている。戦後間もない昭和25年に創立以来、初期やその後の停滞期における八代目湊太夫師外関係者の苦闘を経て今日、女義初の人間国宝土佐廣師を頂点とする保存会員と、次代を担う若手も育ち、毎年教室も盛況というし、OBの方を核とする聴衆も近年確実に増えて来ている事は誠に喜ばしいことだ。

OB会では教室講師の景山教授が、大切りならぬ口語りとして出演されたのには頭が下った。38期生の「新口村」(糸駒之助師)「太十」(同綾之助師)「太棹マドレー」(弥乃太夫師指導)は立派な卒業発表であった。短期間にこれ迄になった「生徒」の皆さんと熱心に指導された講師の方々に拍手を送る。この中からプロになる人が出るかは別として義太夫の深い理解者が、又数十人生まれた事は紛れもない。日本の大衆芸能義太夫を研究テーマとされる異色の女性留学生のワールド

レイクさんの肩姿は、板についてほほえましい。義太夫が国際的になった証拠でもあるもう一人、既に社会的に有名人の若手男性も同期生と難壇に並び、謙虚に、立派に語ったのは好感が持てた。25期の越若さんは既に若手中堅に成長して頼もしく、後統の32期仙難さん外、教室出身プロの皆さんの今後に期待は大きい。当日遠方から駆けつけられた菅野重夫氏の「鮎屋」と素義元老格の一人中島古平氏の「沼津」(共に3期)は、さすが。紙数の都合上一々お名前をあげ得ないが、それぞれにうま味持ち味があり聴き物も多かった。

出演OB御一同、糸の各師匠、企画運営に尽された佐々木先生、綾太夫師外関係者の方々、会の御成功、誠に御苦労様でした。11時開演から終演が伸びて8時半頃迄、延々9時間余、24段。当方途中で2段程食事に中座したので大きな事は言えないが、毎月の協会公演の3日分以上、のべつ幕なしで、聴く方も重労働でした。なお会場が適当でないとと思う。出演者それぞれに知人家族等で、和気あいあいわかるが、熱心な発表が進行中なのに、後の席や廊下ではおかまいなしにおしゃべり、関係者が終れば一グループずつお帰り。終演の頃はかなり少なくなりました。

やはり休憩施設のある会場が望ましい。それに超満員(これは協会の教師の為の講習会にも言えるが)を喜ぶ一方、万一の災害時の避難を考えてしまった。

次に「伝承者研修発表会」フアン心理というか、OB会でのムンムンとしたあの熱気は一体何処へ行ってしまったのか。客席は透き間だらけ、毎月の何割引かの入りとは。その中で、保存会員の指導出演、助演者、若手研修者の熱心な高座で、初日の「嫩軍記」の通し、翌日の「草履打ち」「長局」「野崎村」と良い企画であった。「女流義太夫・つぎ」と「その次」の中に幾人か希望の星の輝きを感じたのは嬉しい。しかし、OB会が、皆心一つにして会を盛り上げたのに対して、一方保存会・協会も若手の教育研修に努力すると共に、その成果を聴いてもらう努力も精神的に行ってもらいたい。研修者も同様。今後の課題として提起しておきたい。

配役について一言申し上げたいが、「長局」の掛合で最後迄一人残ってお初を熱演した人が、数分後の「野崎村」に出ているのは前幕の印象が薄れること、おびたしい。自害した尾上役なら間もあったし、御本人も気分転換、わからぬでもないが、芝居にしても演奏会にしても余韻を大事にしたい。定例公演を含めて配役にはご一考をお願いする。

二つの会を聴いて、以上感じたままを。  
(義太夫協会参与)



# 四十人の若者とともに

池田 弘一



都立工業高等学校  
門学校電気工学科  
第四年年学生四十  
名とともに、一月  
二十七日国立演芸  
場公演の昼の部を  
聴いた。一つには  
専門違いの分野に  
視野を広げるとい  
う目的のもとに、  
一学級の学生が一  
人の欠ける者なく  
参加することを求  
め、学生はそれに  
応えてくれた。  
そこで、浄瑠璃  
世界に無縁の生活  
を送ってきた二十  
歳の若者たちの生  
の声——義太夫節  
初体験——をお聞  
きいただくことと  
する。

(撮影  
佐藤公夫氏)

## 1. 観客の一人となって

**A** 会場に入った時点で、私は場違いだと感じた。世代のはっきり違う人——寒年、老年——が観客のほとんどだ。演芸場に我々が来なければ、お客のすべてがお年寄りだったのではなからうか。

**B** 若干緊張しながら幕の開くのを待った。幕があがると同時に拍手がおこる。ここで乗り遅れてはいけないとむきになって拍手した。やがて演奏が始まる。しかし、舞台で何をしゃべっているのかわからない。しかたなしにパンフレットを目で追いつながら聞くことにした。これはひどく疲れる仕事である。疲れるに従って眠気が襲ってくる。実に大変なところへ来てしまったと思った。

## 2. 演者とその姿

**A** 感心したのは七十歳を越える人たちがあれほど大きな声を出していたことだ。  
**B** 語りは興味を引いた。特に顔の動きである。演じ分ける役がらによって独特

の顔があり、个性的であり、迫りに満ちていた。  
**C** いったいあのパワーはどこからくるのだろう。多分関東大震災や戦争の中を生き抜いてきた強さと、それ以上に義太夫を愛し、そして、後の世に伝えていこうとする思いがそのパワーとなっているのだろうと思った。とにかく明治・大正生まれの強さをあらためて感じた。

## 3. 義太夫節を聴く

**A** うとうととしていた私の耳の奥に何やら響いてくる奇妙な音の群れたちによって、何度となく平手打ちをくった。まなこを凝らして舞台を見ると、泣いたり笑ったり怒ったりと、演じる、いや歌う、いやいや語っている。自らの響きに酔っているかのように気持良さそうに三味線を弾いている人は、時々掛け声をかけ、三味線の絃がはずれると素早く見事に処理した。もしかすると、あれははずれたのではなく、音階を変えるために張りなおされたのかも知れない。

**B** 役に合わせて声を変え、高音から低音まで幅広く声の調整をすることはさすがにすごいと思った。しかし、テンポや言葉の言いまわしが独特すぎて理解しにくい。それに視覚に訴えるものは二人の姿だけで、あまりにもさびしかった。  
**C** “新版歌祭文”の最後の方で三味線

4. 義太夫節の将来を思う

を弾く人が四人になって、その人たちの演奏がとても良かった、上手だと思った。またその時の語り手の声もよく揃って、さすがと思った。なにしろ四人で一斉に弾いた時の姿が強く印象に残った。

A 結局最後まで理解できなかったけれど、ハイ・テク時代の中に昔からの日本人を見たような気がした。それにしても外人さんが真剣なまなざしで舞台に見入っていたのが印象的だった。もしかしたら義太夫という古典芸能の生きる道が異文化との交流のうちにあるのではないかとさえ思った。

B 日本の人口は現在約一億二千万人、そのうちの九九・九九パーセントの人は義太夫に全く興味を示さないのではなからうか、しかし、残りの〇・〇一パーセントの人が義太夫を愛する限り、この文化が減びることは決してなからう。

C 我々は今度、芸というよりも学術的な見地からこの催しを見聞した。老年のお客さんは実に楽しそうに浄瑠璃の世界に溶け込んでいた。この浄瑠璃を芸として楽しむ人が少なくなっていく現在、芸を伝えてゆくことはできても……という心配が浮かんできた。お客とは楽しく聴きに来る存在であり、我々のようなものではないはずだ。

5. ある提言

D 入場の時にもらった印刷物に「義太夫節保存会」とあった。「保存」というからは、保存のための手立てを必要とする——将来の存続があぶない——ということなのだろう。私はその保護者にはなれないし、なる気もない。しかし、義太夫も減びてしまえと思っているわけでもない。それに三百年の伝統の上にある種の完成を見せている芸が、そう簡単に減びるはずがない。だが、形だけが残っていく、という残り方はよくない。生きた芸能として残っていくための研究がもっと積極的に行なわれるべきだ。保存会の人には芸の伝承だけでなく、芸を楽しめるお客を育てる仕事もしくてはいけない。

A 蛇足であるが、舞台挨拶の時、後列の左から二番目に並んだ人が可愛らしいと、我々男子学生の間ではもっぱらの評判だった。ぼくは思う。義太夫が大衆に歓迎されることを望むのなら、初めて聴いた者にもわかるように工夫・演出すること、アイドルを持つこと、この二つが必要だ。

B 三味線の絃の音が実に新鮮に耳に残った。語りが義太夫の中心らしいが、これからは三味線をもっと活躍させるような曲や演出が生まれてもよいのではないかと思う。

6. 私の提言・苦言

1. 一人一人がアイドルなのだ  
義太夫の芸が一朝一夕で成るものではない。世の常のアイドルが現われることはまずないことだ。しかし、アイドルは必要だ。土佐廣師は真摯なる芸の人であると同時に常に新鮮な花のあるアイドルである。人間国宝だからという盲目的な尊崇を排しての工夫を毎度の演奏に必ず見せる。

正会員の諸師よ、あなた方一人一人がアイドルなのだ。髪かたち・持ち物・衣裳・たちいふるまいをふくめて、本牧亭を芸の女の花園とするための工夫と努力をしてほしい。

2. 個を抑えて力を合わせよう

私は思う、義太夫協会の常連は年に二十四回本牧亭に足を運ぶ、それに対して正会員である人たちの本牧亭への足の運び方が少ないのではないかと。出番がないからというのは遠い昔の芸人の世界での言いわけである。己れの芸に磨きをかけ、若い人の芸と行儀を育て、さらには後代を支えるお客を育て、そのためには出演とは別に、本牧亭に出勤する覚悟が必要だと思ふ。常連は二十四回出勤していることを認識してほしい。あえて出勤していると言ったのは、演ぜられる芸が「楽しむ」に足りないものである場合もあるからである。師匠と呼ばれ、先輩とされる人は率先して客とその苦痛(?)を共にせよと苦言を提する。正会員の協力は本牧亭への出勤から始まるものと確信しているからである。

(東京都立工業高等専門学校教授)

協会の動き

昭和60年11月より  
昭和61年4月まで

【昭和六十年】

11月19日 定款一部変更認可(14頁参照)

11月20日 義太夫協会公演会 於本牧亭

11月21日 教師のための義太夫講演会(文化庁助成)八王子車人形参加。教師参加者数の新記録樹立(アンケートは次号に掲載の予定) 於本牧亭

11月23日 定例理事会 於新小松

11月30日 公演部会 於越道宅

12月2日 芸団協新人育成事業昭和60年度助成金交付決定 一五〇、〇〇〇円

12月2・3・4日 女流後継者育成事業 須磨浦研修(野澤勝平師指導) 於国立劇場稽古場

2月3日 昭和60年度民間芸術等振興費補助金(青少年等芸術普及)交付決定 三、〇〇〇、〇〇〇円

12月4日 邦楽連合会 於芸団協会議室

12月14・15日 女流後継者育成事業 妹背山他研修(野澤錦糸師指導) 於国立劇場稽古場

12月19・20日 女流後継者育成事業 寺入研修(豊竹呂大夫師指導) 於国立劇場稽古場

12月20日 第15回心身障害児のための特別公演(NHK厚生文化事業団共催) 於本牧亭

12月21日 昭和60年お名残公演 於本牧亭

12月24日 大会企画委員会(編集会議) 於あぜくら

1月16日 豊澤仙廣賞選考委員会 於新小松

1月20・21日 義太夫協会公演会 20日には吉川会長、葛西聖司NHKアナを聞き手に「土佐廣芸談」(次号に掲載予定) 於本牧亭

1月27日 義太夫節保存会主催・義太夫協会後援「近松半二名作集」公演 於国立劇場演芸場

1月30日 学校巡演 於明星中・高等学校

2月11日 公演部会 於本牧亭

11日 義太夫教室OB演奏会(義太夫教室OB会主催、義太夫協会後援) (6頁、8頁参照) 於本牧亭

2月17・18日 女流後継者育成事業 野崎村研修(野澤勝平師指導) 於国立劇場稽古場

2月20・21日 第五回伝承者研修発表会(義太夫節保存会主催・義太夫協会後援) 於本牧亭

2月24・25日 女流後継者育成事業 寺入研修(豊竹呂大夫師指導) 於新小松

2月24・26日 同 野崎村研修(野澤勝平師指導) 於国立劇場稽古場

3月4・5日 同 野崎村研修(野澤勝平師指導) 於国立劇場稽古場

3月8日 資料・記録部会 於事務局

3月9日 公演部会 於第一生命ホール

3月9日 '86都民芸術フェスティバル 第16回邦楽演奏会 竹本土佐廣他女流が出演した。 於第一生命ホール

3月13日 定例理事会 於新小松

3月18日 第8期歌舞伎俳優研修修了発表会 第8期竹本研修生・第3期鳴物研修生発表会 竹本研修では、太夫一名、三味線一名が受講中

18日 昭和61年度民間芸術等振興費補助金(青少年等芸術普及)事業計画書提出 於国立劇場小劇場

3月20・21日 義太夫協会公演会 20日は野澤錦糸の芸団協助成新人奨励賞表彰式を行った。 於本牧亭

3月26日 常務理事会 於新小松

26日 義太夫教室(文化庁助成)第38期三味線コース終了 (次頁へ)

3月27日 第7回松尾芸能賞「伝統芸能特別賞」を受賞(3頁参照)

於雅叙園観光ホテル

3月28日 重要無形文化財総合指定保持者追加認定さる。(3頁参照)  
28日 義太夫教室(文化庁助成) 第38期語りコース終了

【昭和六十一年度】

4月10日 昭和60年度補助金実績報告書提出  
4月12日 資料・記録部会 於事務局

4月20・21日 義太夫協会公演会 野澤輝雅(錦輝門下) 竹本駒喜美(駒之助門下) 初舞台 於本牧亭

4月21日 昭和61年度補助事業についてピアリング 於文化庁会議室

4月30日 義太夫協会会報第37号発行

東京芸能人健康保険

公営健保よりお得です!

この四月から保険料が改訂され、少しでも所得のある芸能人なら公営健保よりはるかにお得になりました。人間ドッグの補助金、出産祝金等特典もいっぱい。東京・千葉・神奈川・埼玉在住の正会員は至急検討をおすすめします。

万一の怪我や病気の時、芸団協の芸能人年金に入っていれば、14日以上以上の休業に対し見舞金も支給されます。芸能人年金は全国の芸能人が加入できます。早い加入ほど有利です、お急ぎ下さい。

詳細は事務局まで

訃報

鈴木一光氏(常任相談役・特別会員・大日本素義会顧問)

60年12月30日逝去

東京の素義界の重鎮。素義の全国交流を図るため『東西会』を主宰、女流若手育成のため『娘義太夫精進の会』を後援等々、玄義・素義ともに多大な恩恵を蒙りました。

豊澤仙平師(正会員・義太夫節保存会会員) 61年2月13日逝去

春駒師・故三蝶師の相三味線をつとめた三味線女流最長老。昭和48年勲五等、55年重要無形文化財総合指定、享年94歳。

追悼 鈴木一光氏——精進の会のこと——

竹本越孝

若手に一回でも多く舞台のチャンスを与え未熟でもプロとして自覚を持ち、芸をみがき競いあえる会にしたい。鈴木一光氏の暖かい御支援に依って「娘義太夫精進の会」は58年5月から60年6月まで七回をかぞえ、ほとんどの若手が参加し勉強致しました。

公平に組合せ順番もくじ引きで日程も本牧亭公演前後は避け、納得のゆく稽古をして出たい、という私達の希望はほぼ叶えられ、各師匠方の多大な御協力御指導をもちまして、有意義に会を重ねて参りました。終演後ワイワイ騒ぎながら鈴木氏を囲み写真を撮ったり、おみやげを戴いたり、親睦、会合を兼ねた御食事にも何度かお招き下さり、我々は遠慮ない意見を出しあいました。そんな鈴木氏のもとで拍車を加え、八回九回の予定もできつつ

坪内士行氏(顧問) 61年3月19日逝去

昭和45年の協会法人化以後はもとより、戦後まもなくより永年に亘り、顧問をおひきうけ下さいました。享年98歳

竹本綾華師(正会員) 61年3月30日逝去

前進座での義太夫指導に永年貢献。前進座にて心のこもったお別れの会が営まれ、国太郎氏、梅之助氏他前進座の方々、協会からは朝重副会長が列席しました。

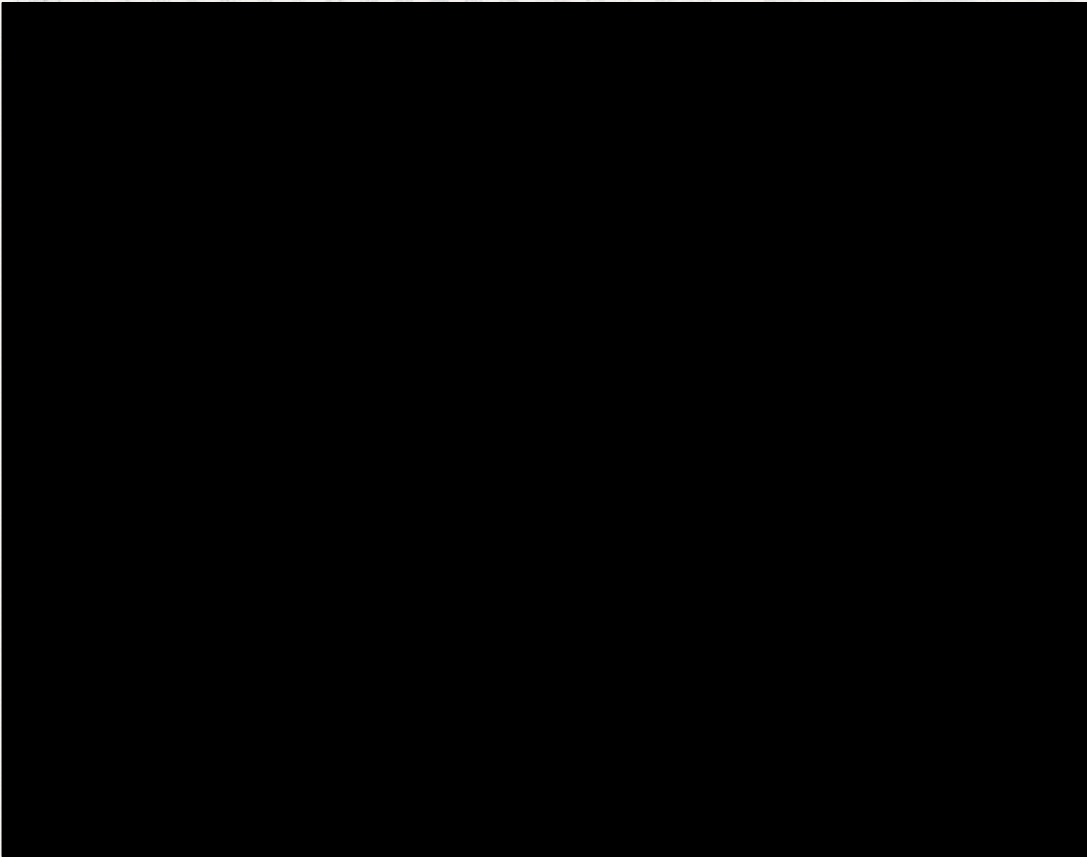
竹本秀太夫師(正会員) 61年4月14日逝去(歌舞伎義太夫に永年貢献されました)

御冥福を心からお祈り申し上げます。

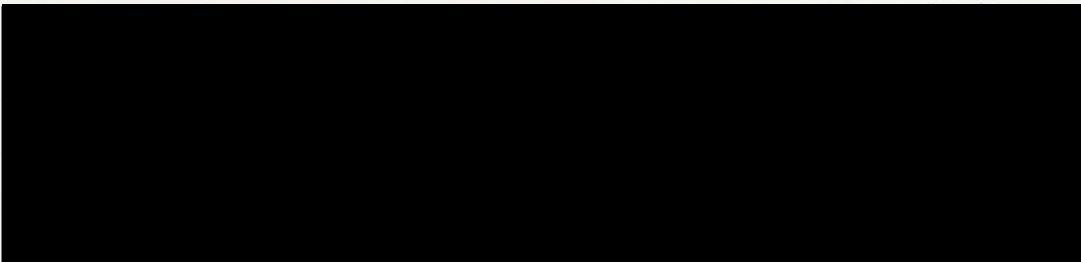
ある所へ、御訃報に接し今私達は深い悲しみを禁ずる事ができません。御病褥に臥して居ても、しきりに会のことを気にされ「どういう訳か今は、芸も画一化する傾向にあるね。特性を生かしてのびのびやってほしいな。みんなにね...早くうまくなってもいいからネ。治ったら(精進の会を)やるからとほかの娘達にも伝えてくれよ。」などと云われるので思わず涙が出そうになり困った事もございます。

台掌

\*\*\*\*\* 新入会員御紹介 \*\*\*\*\*



\*\*\*\*\* 住所等変更 \*\*\*\*\*



保存会に寄附金 豊澤仙廣師・河野國声氏

1月27日に行いました義太夫節保存会主催・義太夫協会後援「近松半二名作集」公演の欠損金を、保存会会長・豊澤仙廣師が50万円、義太夫協会常任相談役・河野國声氏が20万円それぞれ補填して下さいました。義太夫節のためのお二人の物心両面にわたる御援助は誠に有難く、心から御礼申し上げます。どうも有難うございました。

会費改訂と御払込のお願い

義太夫協会の会費は、法人設立以来一度、昭和五十六年に一部改訂させて頂きました。諸般高騰の折から、また他協会との兼ね合いもあり、所轄官庁の指導もございましたので、昭和六十一年度(四月一日)より左の通り改訂させて頂きたく、よろしくお願い申し上げます。

正会員(職業人)

年額八、〇〇〇円(入会后十年以上経過)

年額五、〇〇〇円(入会后十年未満)

特別会員(非職業人)

年額 一口 一〇、〇〇〇円以上

賛助会員(非職業人)

年額四、〇〇〇円

尚、会員サービスとして実施しております本牧亭公演御招待券は、会費据え置き賛助会員につきましては三枚、特別会員につきましては五枚とさせて頂きたく併せて御了承のほどお願い申し上げます。また、準賛助会員の方は、賛助会員に御移行下さいませように。会員各位には御負担をおかけいたしますが、義太夫の普及・発展のため、何卒御理解・御協力賜りますようお願い申し上げます。

社団法人義太夫協会 経理部

会員の方には郵便振替用紙を同封させて頂きました。郵便局より御送金又は関係師匠にお渡し頂ければ幸いです。新規に御入会下さる方は、入会申込書と振替用紙を事務局まで御請求下さい。

定款一部変更

変更部分

第六条 この法人の種別は次のとおりとする。  
一、正会員 この法人の目的に賛同する義太夫節および関連芸能の専門技芸士のうち、会費年額八、〇〇〇円

(入会后十年以上経過)、五〇〇〇円(入会后十年未満)を納める者

三、特別会員

この法人の事業を後援し、会費年額一口、一〇、〇〇〇円以上を納める者

六、準賛助会員

(削除) (昭和60年11月19日認可)

《寄贈》

故鶴澤英治師御遺族様 舞台用三味線

替胴

コマ

(他に舞台用三味線四丁、象牙バチ七丁、コマ多数については、英治師の遺言通りにおわけいたしました。)

藤田 徹氏

女義明治43年写真

一葉

河野 國声氏

見台

一台

佐野 俊三氏

竹本播磨太夫写真

一葉

竹本土佐廣氏

肩衣

十枚

中井智恵子氏

新版酒餅合戦テープ・台本

高野 俊雄氏

女義の思い出アルバム一冊

師走「忠臣蔵」公演プログラム、「近松半二名作集」プログラム等

印刷一式

和田 博氏

女義明治時代資料コピー

長 乾二氏

竹本小土佐短冊コピー

蛭子富美子氏(故蛭子錦氏御遺族)

義太夫教室OB会写真多数

三味線(桐箱入)

一丁

象牙バチ

一丁

五行本

多数

女義盛観物語

一冊

S Pレコード(若太夫・綱造) 太十、陣屋 各十枚揃

「文楽」第四号

一冊

小高 裕子氏

「アガリ糸」

鶴澤正一郎氏

多数

鶴澤寿治郎氏

多数

鶴澤宏太郎氏

多数

豊澤 時若氏

多数

竹本 素丸氏

文具(ファイル他) 多数

編集後記

が、郵便が迷子になったので「会報が届かないを頂いてしまいました。載せきれなかった記事も多いので早急に次号を出そうと思っております。ところで37号に今までと違う所があるのにお気づきでしょうか。会員の方の御指摘により各頁の義太夫協会々報を会報と改めました。細部にまで目を通して下さる読者はコワイイ有難い存在です。コワイといえは、耳の痛い辛口記事の多いのも37号の特色、今、何をなすべきか、今しかできないことがあるのではないかと問かけではないでしょうか。誌上シンポジウム大歓迎、どうぞ忌憚のない御意見を御寄せ下さい。